

予算審査特別委員会

第44号議案・平成22年度白石市一般会計補正予算(第2号)から第47号議案・平成22年度白石市下水道事業会計予算(第1号)までの計4議案については、定例会第2日目(6月16日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・佐久間儀郎、副委員長・山田裕一)で、6月17日に審査した結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

◎第44号議案・平成22年度白石市一般会計補正予算(第2号)

総務財政所管

〔質疑〕キューブの屋根の工事内容は何か。この時期に工事をするのは想定内であったのか。また、キューブは巨額を投じて建てられた施設だが、当時の設計・施工・監理業者とは相談はしたのか。

〔答弁〕今回のキューブの工事は、屋根の漏水箇所などを修繕するもので、漏水箇所が3カ所、その他劣化している

7カ所あわせて10カ所を修繕するものである。今回の雨漏りは、決して想定していたものではなく、雨漏りが生じたため修繕料を計上したものである。



ホワイトキューブの外観

今後は、修繕の必要が生じた時点で修繕料を計上していく予定である。

ホワイトキューブは、平成9年に竣工して13年が経過しており、保証期間は10年となっている。

建設産業所管

〔質疑〕今回、合併する仮称仙南青果に対し105万円の増資の予算計上がなされているが、株式会社白石青果の平成22年3月末現在の経営状態は、決して閉鎖する必要性のないものと思われる。

平成18年にも合併の話があったと聞いているが合意に到らなかったのはどのような理由によるものか。

経営のスリム化を行えば、合併する必要がないと考えるかがか。

〔答弁〕平成18年度当時は白石の経営状況が一番よく、角田、大河原が赤字の状態だったので、三つの株式会社が合併したらどうかという話であった。白石市としては、統合した後に白石に市場が来る

のであれば賛成だったが、物流や配送の面で中心的な場所に市場を置くのが効率的・経済的であるとの考えから、当時においても大河原に統合するという話になり、それでは白石は合併できないと、合併の話は御破算になったのである。

今回の合併については、角田と大河原とで先行して話が進んでおり、白石は、途中から合併協議会に参画した。現在株式会社白石青果の財務状況は、厳密に計算するならば決して赤字の体制ではない。

最近では、買参人も非常に少なくなってきたっており、登録している買参人は多いが、主に取引をしている買参人は3人程度である。この状況で経営を継続するならば、さらに経営が悪化するだけなので、統合した方が将来的にはいいだろうという結論になったと聞いている。白石から市場がなくなるというのは生産者にとって不都合なことは確かであるが、その対策として、小口の生産者のための何らかの方策を今後検討して参りたい。

教育民生所管

〔質疑〕施設開設経費助成特別対策事業補助金について伺いたい。

〔答弁〕昨年度、グループホーム、小規模特別養護老人ホームなどの施設整備を行った。今年度は、これらの施設に対する開設前の準備補助金である。

〔質疑〕仙南けやき教室事業負担金の負担割合について伺いたい。

〔答弁〕歳出の半分は4市9町での均等割であり、残りの半分は5月1日現在の児童生徒数の割合で決定する。

